

## 高齢者の「日常生活活動における関心の志向性」尺度作成の試み

ゴトウ 後藤	ヤスアキ 康彰 <sup>*,8*</sup>	カネコ 金子	イサム 勇 <sup>2*</sup>	サカノ 坂野	タツロウ 達郎 <sup>3*</sup>	ナイトウカ 内藤佳津雄 <sup>4*</sup>
カワムラ 河村	ユウコ 優子 <sup>5*</sup>	サカモト 坂本	ケイコ 恵子 <sup>6*</sup>	タナカ 田中	ヨウコ 陽子 <sup>7*</sup>	クロベ 黒部
ヤザキ 矢崎	トシキ 俊樹 <sup>*</sup>	ナカムラ 中村	ヨシカズ 好一 <sup>8*</sup>			リック 陸夫 <sup>*</sup>

**目的** 高齢者が日常生活において、どのようなことにどの程度関心を持って活動を行っているか（「日常生活活動における関心の志向性」と定義）について評価構造を検討し、尺度の構成を試みる。

**方法** 「日常生活活動における関心の志向性」（以下、関心の志向性と略）に関する項目を収集するため、高齢者保健福祉関連従事者や高齢者を対象としたフォーカスグループインタビューを実施した。平成12年度社会福祉・医療事業団長寿社会福祉基金助成事業による「高齢者の『自立意識』向上支援に関する研究」研究チームで、筆記記録から50項目を整理し、①回答者の負担にならないよう意味の似通った項目は1つに絞る、②回答者によって、解釈が大きく異なる項目は除外する、③ダブル・バーレルとなる項目は除外する、を方針として検討し、18項目を選定した。これらの項目につき、「非常に重要」、「重要」、「あまり重要でない」、「全く重要でない」の4件法で回答を求めるとする設問を含む調査票を設計した。調査は20市区町村の65歳以上の高齢者より無作為抽出した6,094人を対象に、2000年9月～11月に留置法で実施した。各項目ごとの回答分布を観察し、次いで年齢群（65～74歳、75歳以上）・性別に主成分分析を用いて因子構造を調べ、尺度構成を試みた。各尺度のスコアを算出し、年齢群・性別、プロフィール別に比較した。

**成績** 回答者5,565人の内、18項目全てに回答した4,527人を解析対象とした。「家族と一緒に楽しめる」、「身体を動かす」、「家族の役に立つ」、「友人と一緒に楽しめる」、「自然と親しむ」では「非常に重要」、「重要である」とする回答比率が90%以上であった。年齢群・性別に共通する4つの因子を抽出し、それぞれ「人間交流志向」、「自己実現志向」、「社会的認知志向」、「安楽悠々志向」と命名して、16項目で関心の志向性尺度を構成した。各尺度のスコアは年齢群・性別にかかわらず、「人間交流志向」が最も高く、「社会的認知志向」が最も低かった。「自己実現志向」と「安楽悠々志向」スコアは高齢者によって順位が逆転した。

**結論** 高齢者の「関心の志向性」尺度の作成を試みた。この尺度は高齢者個々の関心の志向性を把握することに役立つとともに、高齢者が参加しやすい生きがい活動や社会活動プログラムづくりを考える上での参考に寄与することが期待された。

**Key words** : 高齢者, 関心の志向性, 社会活動, 生きがい, 横断研究

\* 日本健康開発財団

2\* 北海道大学大学院文学研究科社会システム科学講座

3\* 東京工業大学大学院社会理工学専攻

4\* 日本大学文理学部心理学研究室

5\* 大分県久住町在宅介護支援センター

6\* 岩手県宮古市介護保険課

7\* 静内町健康推進課

8\* 自治医科大学公衆衛生学教室

連絡先: 〒108-0074 東京都港区高輪 4-16-5

後藤康彰

### 1 はじめに

高齢者の健康状態を把握するための指標には、身体的な状況だけではなく、主観的な健康感や活動能力、これらを組み合わせた総合的なQOL状況を把握するものが開発されている<sup>1-6)</sup>。高齢者の健康づくり支援の目標は、こうした指標で計測される状況を維持あるいは向上させることにあると考えられる。

高齢者の健康状態に影響を及ぼすものの1つに、活動状況が知られている。日常的な活動パターンは機能的健康度、自己統制との関連が強いことが示唆されており<sup>7)</sup>、社会活動は主観的健康感や主観的幸福感、生きがい形成に影響を及ぼすことが知られている<sup>8~10)</sup>。とくに、高齢者の現状を「役割縮小過程の存在」と位置づけ、「役割創造・維持・回復・拡大」を課題と考える<sup>11)</sup>と、高齢者の社会活動の推進は非常に重要である。

社会活動の状況については、橋本らにより定量的に測定できる指標が開発・検証され<sup>12)</sup>、尾島らによって実用化されている<sup>13~17)</sup>。これにより、社会活動の地域特性の評価、閉じこもり老人の発見、高齢者個々の社会活動の動機づけへの活用が可能となった。

一方、活動支援を考える際、主体となる高齢者の心理状況も重要であると考えられる。身体状況が同じであっても、個々の思いや関心はそれぞれ異なることが予想される。「高齢者が日常生活において、どのようなことにどの程度関心を持って活動を行っているか（「日常生活活動における関心の志向性」と定義、以下「関心の志向性」と略）」を把握することが出来れば、高齢者が参加しやすい生きがい活動や社会活動プログラムづくりを考える上で役立つことが期待されるが、こうしたことを総合的に示す指標は著者の知る範囲では今日に至るまで作成されていない。

本研究は、平成12年度社会福祉・医療事業団長寿社会福祉基金助成事業「高齢者の『自立意識』向上支援に関する研究」で行った全国20市区町村の在宅高齢者調査より、高齢者の「日常生活における関心の志向性」の評価構造を検討し、尺度構成を試みることを目的として実施した。

## II 研究方法

### 1. 調査対象・方法

調査には全国20の市区町村に協力をいただいた(表1)。選定した市区町村は、無作為抽出した200市区町村の内協力要請に応じた11市区町村に、人口規模と地域分布の偏りを考慮して任意に9市区町村を加えたものである。調査対象はこれらの市区町村に居住する65歳以上の男女であり、1市区町村あたり約300人、合計6,094人を無作為抽出した。

表1 調査対象20市区町村

名称	人口人	高齢化率%
北海道 静内町	23,234	22.5
余市町	23,976	23.9
岩手県 宮古市	55,791	28.4
遠野市	28,279	31.3
矢巾町	24,707	24.0
茨城県 美和村	4,965	48.2
東京都 杉並区	501,018	19.4
山梨県 長坂町	9,234	34.5
長野県 長野市	356,763	28.4
茅野市	53,099	41.4
静岡県 浜松市	564,935	40.5
磐田市	85,212	46.0
滋賀県 愛知川町	9,956	53.0
和歌山県 和歌山市	395,268	30.9
愛媛県 今治市	117,816	37.8
城川町	5,022	30.8
大分県 久住町	4,978	31.9
直入町	2,964	36.0
沖縄県 浦添市	103,413	9.2
宜野座村	5,026	16.7

調査票のうち、関心の志向性（詳細は後述）、主観的健康感、友人の状況、近所づきあい、外出頻度、グループ内での存在、社会参加状況、性、年齢、配偶者の有無、同居状況を本研究では使用した。

調査は訪問調査員が自記式調査票の配布・回収を行う留置法で、2000年9月～11月に実施した。ただし、大分県久住町のみは調査票の配布・回収を郵送法で行った。なお、本研究の調査票には氏名、住所など回答者を同定する設問はなく、調査票の提出は対象者の自由意志に委ねられていること、訪問調査員には調査票の厳重な管理を依頼したことから、本研究における倫理的問題点はないと判断した。

### 2. 日常生活活動における関心の志向性調査項目の作成

調査項目の作成に際して実施したフォーカスグループインタビューの概要を表2に示した。インタビューは研究者2名（インタビュアー、筆記・観察者を分担）が会場を訪問し、調査の趣旨を説明後、「高齢者が日常生活において、どのようなことを重要と考えて活動を実施すると思われる

表2 フォーカスグループインタビューの概要

名 称	実施日	実施場所	人数	インタビュー対象の構成	
北海道	静内町	2000年8月29日	静内町役場	7人	町職員3人(内保健師2人), 介護老人福祉施設職員2人, 介護老人保健施設職員1人(保健師), 老人クラブ役員1人
岩手県	余市町	2000年8月28日	余市町役場	4人	町職員4人(内保健師1人)
	宮古市	2000年7月27日	宮古市役所	6人	市職員6人(内保健師1人)
	北上市	2000年7月27日	北上市役所	2人	市職員2人
	遠野市	2000年7月26日	遠野市健康福祉の里	3人	市職員3人
	矢巾町	2000年8月18日	矢巾町役場	3人	市職員3人(内保健師1人)
茨城県	美和村	2000年8月7日	美和村役場	3人	村職員3人(内保健師1人)
山梨県	長坂町	2000年8月11日	長坂町 福祉課	3人	町職員3人(内保健師1人)
長野県	茅野市	2000年8月11日	茅野市社会福祉協議会	5人	市職員2人, 社会福祉協議会職員4人, 介護老人福祉施設職員1人
静岡県	浜松市	2000年8月21日	浜松市文化会館	3人	ボランティア連絡協議会事務局3人
	磐田市	2000年8月11日	磐田市役所	3人	市職員3人(内保健師1人)
滋賀県	愛知川町	2000年8月24日	愛知川町役場	3人	市職員3人(内保健師1人)
兵庫県	西宮市	2000年8月10日	西宮市「すこやかケア西宮」	3人	介護老人保健施設職員3人
和歌山県	和歌山市	2000年9月7日	和歌山市役所	5人	市職員4人, 介護老人保健施設職員1人
愛媛県	今治市	2000年8月2日	今治市役所	7人	市職員2人(内保健師1人), 医師1人, 老人クラブ連合会役員4人
	城川町	2000年8月3日	城川町役場	5人	町職員5人(内保健師2人)
大分県	久住町	2000年8月22日	㈱豊和会会議室	6人	町職員2人, 在宅介護支援センター4人(内介護支援専門員2人)
	直入町	2000年8月22日	直入町保健福祉センター	3人	町職員3人(内介護支援専門員1人)
沖縄県	浦添市	2000年9月1日	浦添市役所	4人	市職員2人(内保健師1人), 介護保険福祉施設職員2人
	宜野座村	2000年8月31日	宜野座村役場	3人	村職員3人

\* 市町村職員は、高齢者保健福祉担当セクションの職員

か」について、30分かけて実施した。平成12年度社会福祉・医療事業団長寿社会福祉基金助成事業による「高齢者の『自立意識』向上支援に関する研究」研究チーム(9人:公衆衛生・社会学・心理学・社会工学の研究者,保健師・介護支援専門員など現場の専門家で構成)で、筆記記録をもとに50項目(表3)に整理した後、①回答する高齢者に負担をかけないよう類似した項目は1つに絞る、②回答者によって、解釈が大きく異なる項目は除外する、③ダブル・バーレルとなる項目は除外する、を方針として、18項目(表3ゴシック項目)を選定した。

設問は「日常生活における活動において、つぎの項目をどの程度重要であるとお考えですか」とし、回答は「非常に重要」、「重要である」、「あまり重要でない」、「全く重要でない」の4件法で求めた。

### 3. 分析

関心の志向性18項目の回答につき「非常に重要(4点)」、「重要である(3点)」、「あまり重要でない(2点)」、「全く重要でない(1点)」を付与し、年齢群(65~74歳,75歳以上に2分)・性別に主成分分析を行った。バリマックス回転後の因子負荷量を参考に尺度構成を試み、信頼性係数を求めた。次に各尺度の1項目あたりのスコアを算出し、プロフィール別に比較した。集計分析にはSPSSver.10.0Jを用いた。

## III 研究結果

### 1. 関心の志向性18項目の分布

調査回答者は5,565人のうち、関心の志向性18項目すべてに回答があった4,527人(全対象者の74.3%,回答者の81.3%)を解析対象とした。解析対象者の年齢・性の内訳は、65~74歳・男

表3 フォーカスグループインタビューで収集した50項目

家族や友人と一緒に楽しめる	恥をかかない
友人と一緒に楽しめる*	疲れしない
家族と一緒に楽しめる*	収入につながる
家族の役に立つ*	年齢にしばられない*
孫と楽しめる	年や性にふさわしい
家族のためになる	異性との交流を楽しむ*
人の役に立つ*	若々しい
人のためになる	伝統的である
社会や人のためになる	人からほめられる*
人と協力し合う*	人と競い合う*
人に迷惑をかけない	注目を浴びる
新しい出会いがある	自分にしかできない
大勢で楽しむ	自分を表現できる*
1人で楽しむ*	達成感がある
気軽に楽しめる*	趣味を楽しむ
気楽に取り組める	身体を動かす*
簡単に取り組める	芸術を鑑賞する*
敷居が低い	自然と親しむ*
面倒くさくない	わくわくできる活動に取り組む
昔からやっている	知識や教養を高める*
多くの人がやっている	技術や技能を高める*
習得しやすい	なにか新しく始める*
習慣になっている	生活の役に立つ
お金がかからない	気晴らしになる
娯楽性が高い	のんびりくつろげる

\*は選定した18項目

1,322人(29.2%), 65~74歳・女1,369人(30.2%), 75歳以上・男822人(18.2%), 75歳以上・女1,014人(22.4%)であった。

18項目に対する回答について「非常に重要」と回答した割合が高い順に並べ替えたものを表4に示した。「家族と一緒に楽しめる」、「身体を動かす」、「家族の役に立つ」、「友人と一緒に楽しめる」、「自然と親しむ」では「非常に重要」、「重要である」とする回答割合が90%以上であった。「異性との交流を楽しむ」、「人と競い合う」では「あまり重要でない」「全く重要でない」が50%以上を占めた。

## 2. 関心の志向性の構造と尺度化

年齢・性別に主成分分析を実施したところ、それぞれ固有値が1以上の因子が4つ抽出された。表5に各因子への因子負荷量大きい項目を整理し、並べ替えた結果を示した。

年齢・性別に各因子に負荷が高い項目を比較し、抽出された4つの因子はほぼ共通することを確認した。65~74歳の男女、75歳以上男性の第I因子、75歳以上女性の第II因子は「家族の役に立つ」、「人と協力しあう」、「人の役に立つ」など、人とのふれあいや交流に関わる項目に負荷が高いことから「人間交流志向」と解釈した。65~74歳

表4 関心の志向18項目の回答分布

項目	非常に重要		重要である		あまり重要でない		全く重要でない	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
家族と一緒に楽しめる	2,483	54.8	1,867	41.2	141	3.1	36	0.8
身体を動かす	2,119	46.8	2,173	48.0	199	4.4	36	0.8
家族の役に立つ	1,934	42.7	2,235	49.4	302	6.7	56	1.2
友人と一緒に楽しめる	1,815	40.1	2,396	52.9	279	6.2	37	0.8
人と協力しあう	1,669	36.9	2,524	55.8	280	6.2	54	1.2
人の役に立つ	1,574	34.8	2,419	53.4	471	10.4	63	1.4
自然と親しむ	1,514	33.4	2,576	56.9	356	7.9	81	1.8
年齢にしばられない	1,272	28.1	2,202	48.6	885	19.5	168	3.7
知識や教養を高める	1,258	27.8	2,358	52.1	723	16.0	188	4.2
気軽に楽しめる	1,017	22.5	2,930	64.7	531	11.7	49	1.1
技術や技能を高める	800	17.7	2,122	46.9	1,305	28.8	300	6.6
自分を表現できる	791	17.5	2,311	51.0	1,274	28.1	151	3.3
芸術を鑑賞する	669	14.8	2,076	45.9	1,368	30.2	414	9.1
人からほめられる	576	12.7	2,024	44.7	1,629	36.0	298	6.6
なにか新しく始める	539	11.9	1,940	42.9	1,600	35.3	448	9.9
1人で楽しむ	477	10.5	1,879	41.5	1,862	41.1	309	6.8
異性との交流を楽しむ	320	7.1	1,448	32.0	1,904	42.1	855	18.9
人と競い合う	156	3.4	838	18.5	2,278	50.3	1,255	27.7

表5 年齢群(65~74歳, 75歳以上)・性別 関心の志向18項目 主成分分析結果

65~74歳・男性 n=1,322						65~74歳・女性 n=1,369					
項目	因子負荷量				共通性	項目	因子負荷量				共通性
	I	II	III	IV			I	II	III	IV	
人と協力し合う	<b>0.68</b>	0.31	0.31	-0.08	0.59	家族の役に立つ	<b>0.75</b>	0.11	0.02	0.07	0.58
家族の役に立つ	<b>0.68</b>	0.18	0.07	0.13	0.52	家族と一緒に楽しめる	<b>0.74</b>	0.08	-0.07	0.08	0.57
家族と一緒に楽しめる	<b>0.68</b>	0.04	0.07	0.09	0.48	人と協力し合う	<b>0.59</b>	0.37	0.24	-0.03	0.55
友人と一緒に楽しめる	<b>0.65</b>	0.02	0.28	0.02	0.50	友人と一緒に楽しめる	<b>0.59</b>	0.13	0.25	0.10	0.44
人の役に立つ	<b>0.61</b>	0.32	0.18	0.09	0.52	身体を動かす	<b>0.57</b>	0.37	0.04	-0.02	0.46
身体を動かす	<b>0.59</b>	0.38	-0.04	0.04	0.50	人の役に立つ	<b>0.56</b>	0.34	0.35	0.06	0.55
年齢にしばられない	<b>0.42</b>	0.28	0.27	0.27	0.40	年齢にしばられない	<b>0.44</b>	0.19	0.44	0.13	0.43
知識や教養を高める	0.26	<b>0.78</b>	0.12	0.06	0.70	知識や教養を高める	0.23	<b>0.78</b>	0.17	0.06	0.69
技術や技能を高める	0.21	<b>0.72</b>	0.23	-0.03	0.62	技術や技能を高める	0.18	<b>0.74</b>	0.32	0.00	0.68
芸術を鑑賞する	0.07	<b>0.66</b>	0.19	0.24	0.53	芸術を鑑賞する	0.14	<b>0.71</b>	0.20	0.17	0.60
なにか新しく始める	0.14	<b>0.65</b>	0.33	0.04	0.55	自然と親しむ	0.29	<b>0.66</b>	-0.01	0.25	0.58
自然と親しむ	0.37	<b>0.55</b>	-0.13	0.25	0.52	なにか新しく始める	0.15	<b>0.59</b>	0.41	0.02	0.54
人と競い合う	-0.05	0.18	<b>0.76</b>	0.05	0.62	人と競い合う	-0.11	0.15	<b>0.71</b>	0.02	0.54
人からほめられる	0.25	0.05	<b>0.72</b>	0.05	0.59	人からほめられる	0.21	0.13	<b>0.68</b>	0.11	0.54
自分を表現できる	0.33	0.28	<b>0.50</b>	0.27	0.52	異性との交流を楽しむ	0.06	0.15	<b>0.62</b>	0.01	0.41
異性との交流を楽しむ	0.19	0.29	<b>0.49</b>	0.14	0.38	自分を表現できる	0.31	0.21	<b>0.57</b>	0.26	0.53
1人で楽しむ	-0.09	0.11	0.13	<b>0.81</b>	0.70	1人で楽しむ	-0.04	0.09	0.10	<b>0.88</b>	0.79
気軽に楽しめる	0.36	0.11	0.11	<b>0.66</b>	0.59	気軽に楽しめる	0.38	0.23	0.16	<b>0.58</b>	0.55
寄与率	18.6%	16.5%	11.5%	8.0%		寄与率	17.4%	17.1%	13.9%	7.4%	

(累積寄与率: 54.5%)

(累積寄与率: 55.7%)

75歳以上・男性 n=822						75歳以上・女性 n=1,014					
項目	因子負荷量				共通性	項目	因子負荷量				共通性
	I	II	III	IV			I	II	III	IV	
家族と一緒に楽しめる	<b>0.74</b>	0.07	0.03	0.16	0.58	知識や教養を高める	<b>0.77</b>	0.19	0.30	0.05	0.72
家族の役に立つ	<b>0.72</b>	0.10	0.10	0.10	0.55	自然と親しむ	<b>0.76</b>	0.25	-0.12	0.14	0.68
人と協力し合う	<b>0.66</b>	0.32	0.25	-0.06	0.60	技術や技能を高める	<b>0.69</b>	0.15	0.44	-0.04	0.69
人の役に立つ	<b>0.63</b>	0.34	0.32	-0.09	0.62	芸術を鑑賞する	<b>0.68</b>	0.15	0.25	0.13	0.56
身体を動かす	<b>0.59</b>	0.34	-0.02	0.08	0.47	身体を動かす	<b>0.53</b>	0.41	-0.07	0.10	0.47
友人と一緒に楽しめる	<b>0.57</b>	0.20	0.28	0.02	0.45	家族の役に立つ	0.14	<b>0.77</b>	0.15	0.01	0.64
技術や技能を高める	0.19	<b>0.77</b>	0.27	-0.01	0.70	家族と一緒に楽しめる	0.07	<b>0.74</b>	0.04	-0.02	0.55
知識や教養を高める	0.32	<b>0.76</b>	0.22	0.00	0.73	人の役に立つ	0.30	<b>0.66</b>	0.26	0.11	0.60
芸術を鑑賞する	0.12	<b>0.68</b>	0.32	0.17	0.60	人と協力し合う	0.40	<b>0.64</b>	0.17	0.12	0.61
自然と親しむ	0.37	<b>0.62</b>	0.00	0.22	0.57	友人と一緒に楽しめる	0.31	<b>0.51</b>	0.14	0.23	0.43
なにか新しく始める	0.15	<b>0.61</b>	0.38	0.06	0.55	人と競い合う	0.04	0.00	<b>0.79</b>	0.06	0.62
人と競い合う	-0.09	0.19	<b>0.72</b>	0.10	0.57	異性との交流を楽しむ	0.10	0.15	<b>0.59</b>	0.01	0.39
人からほめられる	0.16	0.15	<b>0.68</b>	0.09	0.51	なにか新しく始める	0.51	0.10	<b>0.52</b>	0.06	0.54
異性との交流を楽しむ	0.15	0.21	<b>0.66</b>	0.01	0.50	自分を表現できる	0.21	0.37	<b>0.48</b>	0.30	0.50
自分を表現できる	0.33	0.20	<b>0.59</b>	0.16	0.53	人からほめられる	0.19	0.32	<b>0.44</b>	0.22	0.38
年齢にしばられない	0.42	0.16	<b>0.46</b>	0.08	0.42	1人で楽しむ	0.04	-0.13	0.13	<b>0.80</b>	0.68
1人で楽しむ	-0.06	0.08	0.16	<b>0.87</b>	0.79	気軽に楽しめる	0.12	0.36	0.01	<b>0.69</b>	0.62
気軽に楽しめる	0.40	0.12	0.11	<b>0.64</b>	0.59	年齢にしばられない	0.34	0.31	0.33	0.38	0.47
寄与率	18.8%	16.5%	14.6%	7.5%		寄与率	18.0%	17.1%	12.7%	8.6%	

(累積寄与率: 57.4%)

(累積寄与率: 56.3%)

の男女, 75歳以上男性の第II因子, 75歳以上女性の第I因子は, 「知識や教養を高める」, 「技術や技能を高める」, 「芸術を鑑賞する」など目的を持って行う能動的な取り組みに関わる項目に負荷が

高いことから「自己実現志向」と解釈した。第III因子は「人と競い合う」, 「人からほめられる」, 「自分を表現できる」など自らの社会との関わり合いの中での事象に関連する項目に負荷が高いこ

とから、「社会的認知志向」と解釈した。第Ⅳ因子には「気軽に楽しめる」、「1人で楽しめる」のマイペースで楽しむ項目に負荷が高いことから、「安楽悠々志向」と解釈した。

4群での各因子への負荷量や内容を考慮し、「人間交流志向」に「家族と一緒に楽しめる」、「家族の役に立つ」、「人と協力し合う」、「人の役に立つ」、「友人と一緒に楽しめる」の5項目、「自己実現志向」に「知識や教養を高める」、「技術や知識を高める」、「芸術を鑑賞する」、「なにか新しく始める」、「自然と親しむ」の5項目、「社会的認知志向」に「人と競い合う」「人からほめられる」「異性との交流を楽しむ」「自分を表現できる」の4項目、「安楽悠々志向」に「1人で楽しめる」「気軽に楽しめる」の2項目を採用し、「日常生活活動における関心の志向性尺度」を構成した。「身体を動かす」、「年齢にしばられない」は負荷が高い因子が安定していなかったことから除外した。

各志向の信頼性係数を年齢群・性別に算出したところ、5項目の「人間交流志向」、「自己実現志向」では内的整合性を確認できたが、4項目の

「社会的認知志向」、2項目の「安楽悠々志向」では低い値に留まった(表6)。

### 3. 関心の志向性尺度のスコア

各志向毎の素点を加算し、1項目あたりの点数を算出した年齢・性別スコアを表7に示した。

年齢や性にかかわらず「人間交流志向」が最も高く、「社会的認知志向」が最も低いスコアであった。65~74歳男女、75歳以上男性では「自己実現志向」が2番目、「安楽悠々志向」が3番目に高かったのに対し、75歳以上女性ではこの順位が逆転した。

「人間交流志向」、「自己実現志向」、「社会的認知志向」では65~74歳が75歳以上より高いスコアを示したのに対し、「安楽悠々志向」では年齢群による差は認められなかった。また、「人間交流志向」では65~74歳では女性が男性よりスコアが高いのに対し、75歳以上では男女差は認められなかった。「自己実現志向」では65~74歳では男女差が認められなかったのに対し、75歳以上では男性が女性より高いスコアを示した。「社会的認知志向」では、65~74歳で男性が女性より高いスコアなのに対し、「安楽悠々志向」では女性が男性より高いスコアを示した。

表8は、高齢者のプロフィール毎に関心の志向性スコアを算出したものである。「主観的に健康である」、「親しい友人がいる」、「外出頻度が多い」、「近所付き合いが密である」、「グループ内でリーダー・補佐の存在である」、「楽しいから社会活動に参加している」とする群ではそうではない群に対して有意にスコアが高く、これらの多くで「自己実現志向」が「安楽悠々志向」より高いス

表6 尺度ごとの信頼性係数

尺 度	信頼性係数				
	全体	65~74歳		75歳以上	
		男性	女性	男性	女性
人間交流志向	0.79	0.78	0.77	0.80	0.80
自己実現志向	0.82	0.79	0.83	0.83	0.83
社会的認知志向	0.66	0.67	0.67	0.70	0.63
安楽悠々志向	0.46	0.45	0.45	0.50	0.46

表7 尺度ごとの年齢群・性別スコア

	n	1項目あたり得点±SD					合 計
		人間交流志向	自己実現志向	社会的認知志向	安楽悠々志向		
男性 65~74歳	1,322	3.34(0.43)	<b>2.90(0.54)</b>	2.49(0.54)	2.78(0.54)	11.53(1.53)	
75歳以上	822	3.28(0.48)	<b>2.84(0.61)</b>	2.40(0.57)	2.78(0.57)	11.33(1.67)	
女性 65~74歳	1,369	3.39(0.45)	<b>2.90(0.59)</b>	2.43(0.54)	2.86(0.55)	11.58(1.61)	
75歳以上	1,014	3.29(0.52)	2.71(0.65)	2.37(0.55)	<b>2.86(0.58)</b>	11.24(1.70)	
全体	4,527	3.33(0.47)	2.85(0.60)	2.43(0.55)	2.82(0.56)	11.44(1.62)	

男女別年齢層、年齢層別男女間のスコア比較：平均値の差の検定

\*\*  $P < 0.01$

各志向間のスコア比較：平均値の差の検定

人間交流 > 自己実現, 安楽悠々 > 社会的認知:  $P < 0.01$   
自己実現, 安楽悠々で有意に高いスコアにゴシック:  $P < 0.01$

表8 プロフィール別尺度スコア

	n	人間交流志向	自己実現志向	1項目あたり得点±SD 社会的認知志向	安楽悠々志向	合計
主観的健康感						
健康	3,020	3.36±0.46]**	2.89±0.59]**	2.46±0.55]**	2.84±0.56]**	11.56±1.59]**
健康ではない	1,290	3.25±0.49]	2.74±0.63]**	2.34±0.56]**	2.77±0.57]	11.11±1.69]**
親しい友人						
いる	4,204	3.36±0.45]**	2.87±0.59]**	2.45±0.55]**	2.83±0.56]**	11.52±1.48]**
いない	279	2.91±0.57]**	2.50±0.67]**	2.11±0.58]**	2.74±0.61]**	10.30±1.83]**
外出頻度						
週2~3回以上	3,129	3.38±0.45]**	2.92±0.58]**	2.47±0.54]**	2.85±0.56]**	11.63±1.57]**
週1回以下程度	1,355	3.22±0.50]**	2.69±0.62]**	2.32±0.56]**	2.74±0.56]**	10.97±1.65]**
近所づきあい						
家を訪問しあう	1,187	3.46±0.44]**	2.94±0.59]**	2.50±0.56]**	2.89±0.56]**	11.79±1.59]**
世間話程度以下	3,307	3.29±0.47]**	2.81±0.60]**	2.40±0.55]**	2.80±0.56]**	11.31±1.62]**
グループでの存在						
リーダー	821	3.51±0.41]**	3.10±0.53]**	2.65±0.54]**	2.88±0.58]**	12.14±1.53]**
補佐役	1,142	3.40±0.40]**	2.98±0.54]**	2.53±0.51]**	2.84±0.53]**	11.76±1.42]**
一員	2,385	3.25±0.48]**	2.72±0.60]**	2.32±0.54]**	2.79±0.56]**	11.11±1.61]**
社会参加活動						
楽しいから参加	2,588	3.43±0.43]**	2.97±0.56]**	2.53±0.53]**	2.87±0.56]**	11.81±1.51]**
みんなが参加するから参加	665	3.23±0.43]**	2.73±0.55]**	2.35±0.51]**	2.76±0.53]**	11.09±1.46]**
なし	1,000	3.15±0.53]**	2.59±0.64]**	2.22±0.56]**	2.74±0.58]**	10.72±1.71]**
過ごす場所の好み						
自宅	3,353	3.31±0.47]**	2.82±0.60]**	2.39±0.55]**	2.83±0.56]**	11.36±1.63]**
自宅以外	1,091	3.39±0.46]**	2.93±0.60]**	2.55±0.55]**	2.78±0.57]**	11.66±1.59]**
配偶者						
あり	3,101	3.35±0.45]**	2.87±0.58]**	2.43±0.55]**	2.79±0.56]**	11.46±1.60]**
なし	1,400	3.30±0.51]**	2.80±0.64]**	2.42±0.55]**	2.89±0.56]**	11.42±1.67]**
世帯状況						
同居者あり	3,908	3.35±0.46]**	2.85±0.59]**	2.43±0.55]**	2.81±0.56]**	11.44±1.69]**
ひとりぐらし	587	3.25±0.54]**	2.83±0.64]**	2.44±0.56]**	2.92±0.56]**	11.47±1.61]**
居住市区町村人口						
10,000人未満	1,617	3.32±0.49]	2.77±0.62]**	2.38±0.57]**	2.77±0.56]**	11.26±1.64]**
10,000~30,000人未満	969	3.31±0.47]	2.81±0.57]**	2.42±0.53]**	2.80±0.55]**	11.35±1.56]**
50,000~150,000人未満	1,097	3.39±0.43]**	2.91±0.58]**	2.46±0.54]**	2.85±0.56]**	11.63±1.61]**
300,000人以上	844	3.30±0.49]	2.94±0.61]**	2.48±0.57]**	2.91±0.55]**	11.65±1.64]**
全 体	4,527	3.33±0.47]	2.85±0.60]	2.43±0.55]	2.82±0.56]	11.44±1.62]

各プロフィール間スコア比較：平均値の差の検定  
 \*\*\* P<0.01, \* P<0.05  
 各志向間のスコア比較：平均値の差の検定  
 人間交流>自己実現, 安楽悠々>社会的認知: P<0.01  
 自己実現, 安楽悠々で有意に高いスコアにゴシック: P<0.01

コアであった。また、「親しい友人がいない」、「外出頻度が少ない」、「グループでは一員的存在」、「社会活動に参加していない」群では、「安楽悠々志向」が「自己実現志向」より高いスコアであった。世帯状況、配偶者の有無は合計スコアに差はなかったが、「同居者がいる」、「配偶者がいる」群では「自己実現志向」が「安楽悠々志向」より高いスコアなのに対し、「ひとりぐらし」、「配偶者がいない」群では「安楽悠々志向」が「自己実現志向」より高いスコアであった。居住市区町村の人口別にみると、「自己実現志向」、「社会的認知志向」、「安楽悠々志向」では人口が多い市区町村居住者ほど高いスコアの傾向があったが、「人間交流志向」では人口5~15万人が他の区分より有意に高いスコアを示した。

#### IV 考 察

本研究では、高齢者の「日常生活活動における関心の志向性」について構造化し、尺度を構成することを目的とした。調査対象者は無作為抽出だが、調査対象市区町村は無作為に抽出したものではない。しかし、協力いただいた市区町村は北海道から沖縄までに分布しており、人口規模で見ると1万人以下6か所、1~3万人5か所、5~15万人5か所、30万人以上4か所で、わが国における高齢者の実態の一端を反映しているものと考えた。

調査に用いた「関心の志向性」18項目は、高齢者保健福祉関連従事者や高齢者を対象としたフォーカスグループインタビューを経て、平成12年度社会福祉医療事業団長寿社会福祉基金助成事業による「高齢者の自立意識向上支援に関する研究」研究チームで議論を行って選定したもので、高齢者の関心のある程度網羅していると考えた。

主成分分析によって抽出した「人間交流志向」、「自己実現志向」、「社会的認知志向」、「安楽悠々志向」の4因子は、年齢や性にかかわらず評価構造が安定しており、16項目で構成した本尺度は、ある程度妥当性を有するものと考えられた。ただ、内的整合性は「社会的認知志向」、「安楽悠々志向」で十分得られなかった。これは項目選定の際、回答する高齢者の負担を減らすよう、類似した項目を除外したことに起因すると考えられる。本尺度の構成概念をもとに、信頼性を高めることができると思われる項目を追加することについ

ては議論の余地がある。

本研究では、下位尺度のスコア化に際し、誰もが簡単に利用できるよう、各尺度の平均値を算出して、4志向の特徴について検討した。「人間交流志向」は、人とのふれあいや交流に関わる項目で構成され、多くの高齢者にとって最も強い志向であった。「非常に重要」、「重要である」に回答が偏向している因子とみることもできるが、内藤らの調査で高齢者が社会活動に求める条件として、「一緒に活動する仲間がいること」が最も重視されたこと<sup>18)</sup>と矛盾しない。逆に最も弱い志向は、自らの社会との関わり合いの中での事象に関連する「社会的認知志向」であった。目的を持って行う能動的な取り組みに関わる「自己実現志向」、マイペースで楽しむ「安楽悠々志向」は高齢者によって志向の強さが異なったことには注目したい。志向の強さ関係の組み合わせに応じて、活動や支援策に対する「受け入れやすさ」が異なると予想されるからである。

年齢・性別ごとのスコアを比較したところ、「人間交流志向」、「自己実現志向」、「社会的認知志向」が男女とも加齢によって低下したのに対し、「安楽悠々志向」は男女とも加齢の影響を受けなかった。これは加齢に伴う活動能力の低下<sup>19)</sup>や社会関係の縮小<sup>20)</sup>が、「人間交流志向」、「自己実現志向」、「社会的認知志向」に影響するのに対し、「気軽に楽しむ」、「1人で楽しむ」で構成される「安楽悠々志向」には大きく影響しないことによるものと推察された。65~74歳では男性が女性より「社会的認知志向」が強かったこと、年齢にかかわらず女性が男性より「安楽悠々志向」が強かったことは、男性は職場仲間関係、女性は近隣関係の社会的ネットワークを異性より多く組織していること<sup>21)</sup>と関連しているかもしれない。

つぎにプロフィール毎のスコアを検討した。主観的健康感が高い群、社会とのかかわりを多く持ち活動的である群で4志向ともスコアが高かったことは、心理的・社会的に良好な状態と関心を強く持つことが関連していることを示唆している。これらの群では「自己実現志向」が「安楽悠々志向」より強かったこと、「親しい友人がいない」、「外出頻度が週1回以下程度」、「グループでは集団の一員的存在」、「社会参加活動に参加していない」群ではこの関係が逆転したことは、「自己実



現志向」と「安楽悠々志向」の強弱関係が、社会との関わりや活動の積極性をある程度反映することを示している。「配偶者がいない」「同居者がいない」群でも「安楽悠々志向」が「自己実現志向」より強かったが、スコアの合計には差がなく、配偶者や同居者の有無が必ずしも関心全体を引き下げる要因ではないことが示唆された。

居住市区町村の人口が多いほうが、少ない市区町村よりおおむね高いスコアを示したことは、関心を高める資源が、人口規模の大きい市区町村に多く存在することによるものと思われる。「人間交流志向」で人口30万人以上より5~15万人のほうがスコアが高い傾向にあったのは、生活における行動範囲が狭くなる高齢者にとって、都市度が高くなるほど近距離に位置する友人が減ること<sup>22)</sup>が影響しているためかもしれない。ただし、「下町」や「山の手」、「近郊都市」により高齢者のソーシャルネットワーク構造が異なること<sup>23)</sup>も指摘されており、都市部における「人間交流志向」も必ずしも同様な傾向にないと推察される。

本解析で、高齢者のプロフィールにより「関心の志向性」が様々に異なったことは、本尺度が高齢者の日常生活を理解し、高齢者の支援を考える上で有益なツールとなる可能性を示唆するものである。なお、具体的な支援策を考える際には、下位尺度のスコアだけではなく、個別の項目に注目することも必要であろう。

本研究では、高齢者の「日常生活活動における関心の志向性」尺度の作成を試み、各志向の特徴を整理した。本尺度は高齢者個々の関心の志向性を把握し、個人や地域に「受け入れられやすい」生きがい活動や社会活動プログラムづくりの参考に寄与することが期待された。一方で、地域にある活動メニューの多寡など高齢者を取り巻く環境要因が、関心の志向性に影響を及ぼしている可能性も留意すべきであろう。つまり、関心の志向性に応じた支援策を考えるとともに、高齢者の関心を高めるためにはどうすべきか、との観点からのアプローチも必要である。

稿を終えるに当たり、調査にご協力いただいた市区町村関係各位に御礼申し上げます。

本研究は、社会福祉・医療事業団の平成12年度長寿社会福祉基金助成を受け、「高齢者の『自立意識』向上

支援に関する研究」として実施したものの一部である。

(受付 2003. 8.15)  
(採用 2005. 1.24)

## 文 献

- 1) Lawton MP. The Philadelphia Geriatric Center morale scale: A revision. *Journal of Gerontology*: 1975; 30: 85-89.
- 2) 古谷野亘, 柴田 博, 芳賀 博, 他. 生活満足度の構造: 因子構造の不変性. *老年社会科学* 1990; 12: 102-116.
- 3) 石原 治, 内藤佳津雄, 長嶋紀一. 主観的尺度に基づく心理的側面を中心としたQOL評価表作成の試み. *老年社会科学* 1992; 14: 43-51.
- 4) Lawton MP, Brody EM. Assessment of older people: Self-Maintaining and Instrumental Activities of daily living. *Gerontologist*, 1969, 9; 179-186.
- 5) 古谷野亘, 柴田 博, 中里克治, 他. 地域老人における活動能力の測定—老研式活動能力指標の開発—. *日本公衛誌* 1987; 34: 109-114.
- 6) 太田寿城, 芳賀 博, 長田久雄, 他. 地域高齢者のためのQOL質問票の開発と評価. *日本公衛誌* 2001; 48: 258-267.
- 7) Baltes MM, Wahl HW, Schmid-Furstoss U. The daily life of elderly Germans: activity patterns, personal control, and functional health. *Journal of Gerontology: Psychol Scien* 1990; 45, 173-179.
- 8) 中村好一, 金子 勇, 河村優子, 他. 在宅高齢者の主観的健康感と関連する因子. *日本公衛誌* 2002; 49: 409-416.
- 9) 永井正規. 高齢者における社会活動指標の開発—ADL, 幸福感と社会活動との関連—. 厚生省厚生科学研究費補助金長寿科学総合研究 平成7年度報告 Vol 8 1996; 368-374.
- 10) 松田晋哉, 筒井由香, 高島洋子. 地域高齢者の生きがい形成に関連する重要度の分析について. *日本公衛誌* 1998; 45: 704-712.
- 11) 金子 勇. 高齢者の生活環境—高齢者と地域社会. *Gerontology* 1998; 10: 357-362.
- 12) 橋本修二, 青木利恵, 玉腰暁子, 他. 高齢者における社会活動状況の指標の開発. *日本公衛誌* 1997; 44: 760-768.
- 13) 尾島俊之, 柴崎智美, 橋本修二, 他. いきいき社会活動チェック表の開発. *公衆衛生* 1998; 62: 894-899.
- 14) 永井正規, 柴崎智美, 尾島俊之, 他. 高齢者における社会活動指標の開発—指標摘要の基礎的検討2—. 厚生省厚生科学研究費補助金長寿科学総合研究平成9年度研究報告 Vol8 1998; 310-315.
- 15) 五十里明, 橋本修二, 永井正規, 他. 高齢者における社会活動指標の応用—個人評価指標による地域

- 評価一. 厚生省厚生科学研究費補助金長寿科学総合研究 平成8年度報告 Vol8 1997; 8: 217-220.
- 16) 高橋美保子, 柴崎智美, 橋本修二, 他. 「いきいき社会活動チェック表」による地域高齢者の社会活動レベルの評価. 日本公衛誌 2000; 47: 936-944.
- 17) 大野良之, 青木利恵, 五十里明, 他. いきいき社会活動チェック表利用の手引き. 大野良之, 編. 高齢者の社会活動評価法に関する研究班, 1998.
- 18) 介護予防に関する要因分析研究班(内藤佳津雄). 閉じこもり予防に関する要因分析. 介護予防に関する要因分析研究班, 編. 介護予防に関する要因分析調査研究報告書. 東京: 財団法人全国保健福祉情報システム開発協会, 2001; 25-36.
- 19) 古谷野亘, 橋本廸生, 府川哲夫, 他. 地域老人の生活機能: 老研式活動能力指標による測定値の分布. 日本公衛誌 1993; 40: 468-474.
- 20) 奥山正司. 大都市における老夫婦のみの世帯の追跡研究. 社会老年学 1992; 36: 27-38.
- 21) 野辺政雄. 高齢者の社会的ネットワークとソーシャル・サポートの性別による違いについて. 社会学評論 1999; 50: 375-392.
- 22) 森岡清志, 中尾啓子, 玉野和志. 都市度とパーソナルネットワーク—研究目的・経過・結果の概要一. 総合都市研究 1997; 64: 5-15.
- 23) 平野順子, 工藤由貴子, 袖井孝子. 高齢者と都市の環境(第2報) 地域特性とソーシャルネットワーク. 日本家政学会誌 1998; 49: 1209-1216.
-

## SCALE FOR ASSESSING INTERESTS OF JAPANESE ELDERLY PEOPLE IN THEIR DAILY LIFE

Yasuaki GOTO\*, Isamu KANEKO<sup>2\*</sup>, Tatsuro SAKANO<sup>3\*</sup>, Katsuo NAITO<sup>4\*</sup>,  
Yuko KAWAMURA<sup>5\*</sup>, Keiko SAKAMOTO<sup>6\*</sup>, Youko TANAKA<sup>7\*</sup>, Rikuo KUROBE\*,  
Toshiki YAZAKI\*, and Yosikazu NAKAMURA<sup>8\*</sup>

**Key words** : elderly, interest in daily life, social activity, well-being, cross-sectional studiesf

**Objective** Programs to support independent living for elderly people are generally designed taking into account physical and psychological conditions. The interests of individuals are diverse even when the physical conditions are the same. Interests in daily life are important factors for adequate planning of the programs for independent living. The purpose of this study was to examine an evaluation structure of interests of Japanese elderly people in their daily life.

**Methods** Focus group interviews were conducted to collect items for interests in daily life by several researchers targeting activity groups of elderly people. Eighteen items were extracted from a total of 50 following the principles: (1) Items with similar meanings are brought together; (2) Items which might have big differences in meaning depending on the subject were excluded; and (3) Items which were double barreled were excluded. The questionnaire 18 items were designed to give a 4-point Likart scale for answers from “very important” to “not important at all”. The survey was conducted in 20 municipalities all over Japan in 2000. From residents aged 65 years and over, 6,094 individuals were selected randomly as the study population.

**Results** Of 5,565 participants, 4,527 individuals answered all 18 items. “To have a good time with the family” was the favorite answer (54.8%), rated as “very important”. Four factors (eigenvalue > 1) were extracted by applying principal component analysis: “to live with good communication”, “to achieve one’s purpose”, “to live socially”, and “to live comfortably”. “To live with good communication” showed the highest score and “To live socially” showed the lowest score.

**Conclusion** With this scale, we could precisely determine the diversity of interests of Japanese elderly people in their daily life. We suggest that this scale might be useful not only to analyze the interests of individuals, but also to plan programs in terms of quality of life or independent living in late life.

---

\* Japan Health and Research Institute

<sup>2\*</sup> Department of Sociology, Hokkaido University Graduate School of Letters

<sup>3\*</sup> Department of Social Engineering, Tokyo Institute of Technology Graduate School of Decision Science and Technology

<sup>4\*</sup> Department of Psychology, Nihon University College of Humanities and Sciences

<sup>5\*</sup> Home Health and Welfare Service Support Center of Kuju, Oita

<sup>6\*</sup> Municipal Government of Miyako, Iwate

<sup>7\*</sup> Municipal Government of Shizunai, Hokkaido

<sup>8\*</sup> Department of Public Health, Jichi Medical School